



# 四半期オフィスマーケットレポート 東京2026Q1

2026年4月27日

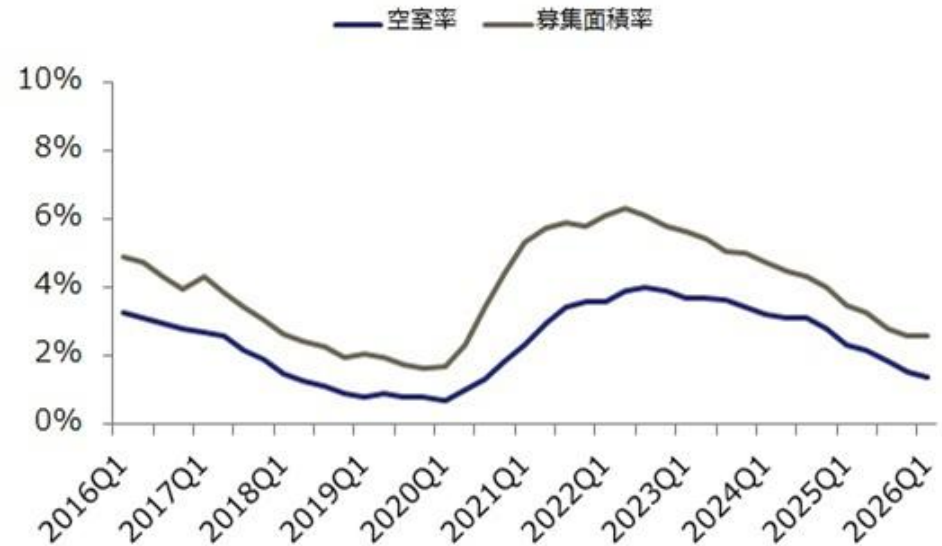
ザイマックス総研

- 今期（2026年1～3月期）の東京23区オフィスマーケットは、前期から空室率は下落、新規賃料は上昇となった。
- **空室率**は、前期から0.18ポイント下落し、**1.37%**となった。解約予告済み・募集中の面積を加えた**募集面積率**は前期から0.03ポイント下落して**2.57%**となった。**空室増減量**は**増加が12.6万坪、減少が14.9万坪**と、空室面積の減少が増加を上回った。空室在庫の減少割合を示す**空室消化率**は、前期から11.4ポイント上昇し、**66.9%**となった。
- 新規賃料の水準を示す**新規成約賃料インデックス**は、前期から8ポイント上昇して**108**となった。新規賃料が上昇した物件の割合から、下落した物件の割合を引いた**成約賃料DI**は前期から2ポイント下落して**55**で、8四半期連続のプラス圏となった。
- 新規賃料と継続賃料の両方を含む**支払賃料インデックス**は前期から2ポイント上昇の**109**となった。
- **全契約の平均FR（フリーレント）月数**は**2.2ヶ月**、**FRあり契約の平均FR月数**は**4.2ヶ月**、**2ヶ月以上付与率**は**45.5%**、**6ヶ月以上付与率**は**15.1%**となった。

# 空室率は1.37%、募集面積率は2.57%

- 空室率は前期から**0.18ポイント下落**し、**1.37%**
- 募集面積率は前期から**0.03ポイント下落**し、**2.57%**
- 空室率は11四半期、募集面積率は15四半期連続して下落。
- テナント企業の人員増加や入社回帰を背景にオフィス需要は底堅く、空室率の下落が進んでいる。
- 既存の空室が減少する中、数年先に竣工予定のビルへの引き合いも生まれている。

【図表1】空室率・募集面積率（全規模）



	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
空室率	2.33%	2.15%	1.85%	1.55%	1.37%
募集面積率	3.50%	3.28%	2.81%	2.60%	2.57%

空室率：総賃貸面積における空室面積（テナント退去済みで即入居可能な空室面積：現空）の割合。

募集面積率：総賃貸面積における空室（現空）面積と解約予告済み・募集中（テナント退去前）面積の合計の割合。

規模別・エリア別については月次公表「[オフィス空室マンスリーレポート](#)」参照

# 空室増加面積は12.6万坪、空室減少面積は14.9万坪

- **空室増加面積**は前期から**4.3万坪増加**し、**12.6万坪**
- **空室減少面積**は前期から**2.8万坪増加**し、**14.9万坪**
- 堅調に推移するオフィス需要を受け、11四半期連続で空室減少面積が空室増加面積を上回った。
- テナントの退去が決まった後、館内増床やオーナーによる募集によって空室が消化され、空室として市場に出ないケースが多くみられる。そのため、実際には空室増減の数値以上の退去と入居（拡張）が生じている状況が継続している。

【図表2】空室増減量（23区・全規模）



空室増加面積：以下の合計面積

- ・既存物件で、テナント退去などにより生じた空室面積
- ・新規竣工物件の総賃貸面積

空室減少面積：以下の合計面積

- ・既存物件の空室で、テナント入居などで募集終了となった面積
- ・新規竣工物件の竣工時点でテナント入居が決まっている面積

詳しくは、2017年1月23日公表「オフィス空室増減量調査(東京23区)を公開」参照

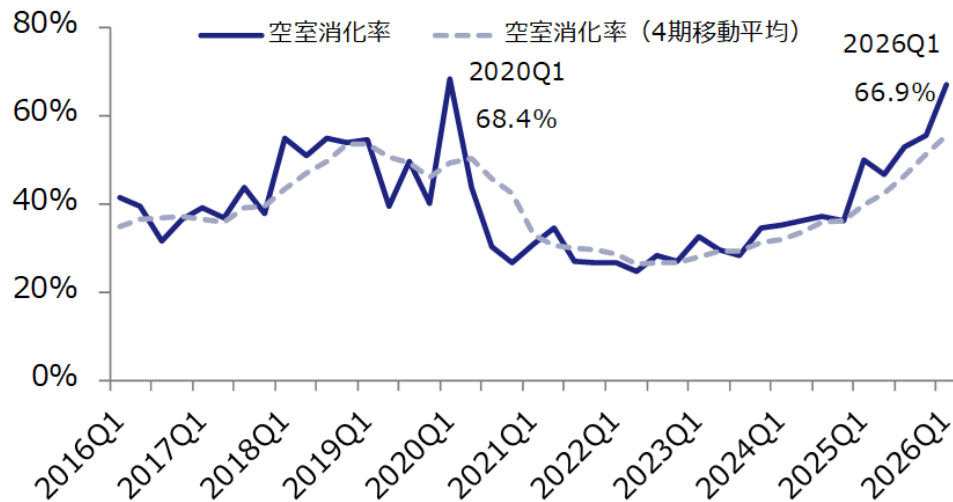
[https://soken.xymax.co.jp/report/1701-vacancy\\_volume\\_research.html](https://soken.xymax.co.jp/report/1701-vacancy_volume_research.html)

	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
空室増加面積	157,000	138,000	102,000	83,000	126,000
空室減少面積	212,000	163,000	153,000	121,000	149,000
空室率（右軸）	2.33%	2.15%	1.85%	1.55%	1.37%

# 空室消化率は66.9%

- **空室消化率**は前期から**11.4ポイント上昇**し、**66.9%**
- 空室消化率は60%を超え、コロナ禍直前の2020Q1の68.4%に迫ってきている。
- 四半期移動平均値の数値は**55.5%**と、2019Q1の53.6%を上回り、調査開始以降の最高値を更新した。

【図表3】 空室消化率



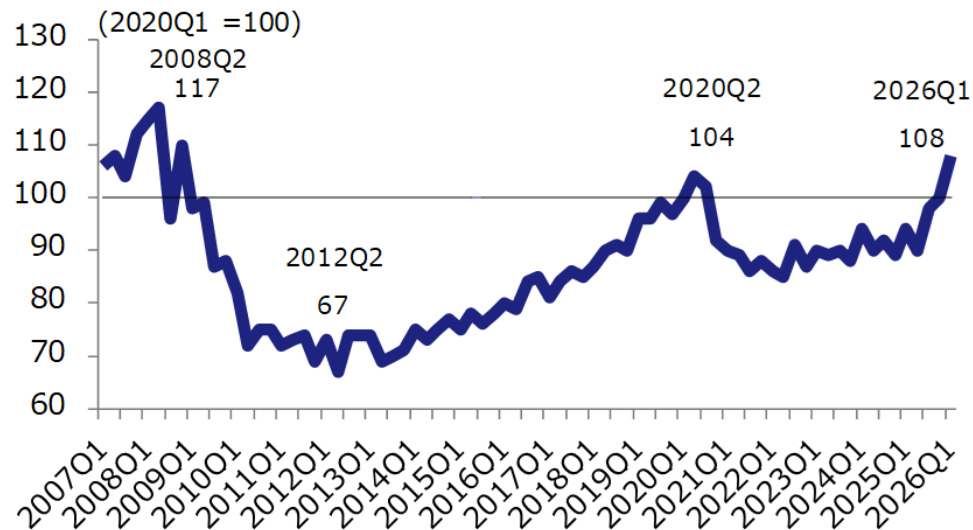
	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
空室消化率	50.1%	46.6%	53.0%	55.5%	66.9%
空室消化率 (4期移動平均)	39.8%	42.5%	46.4%	51.3%	55.5%

空室消化率：空室在庫（期初の空室在庫＋期間中に発生した空室の総量）に対して、期間中に減少した空室面積の割合。

# 新規成約賃料インデックスは108

- **新規成約賃料インデックス**は前期から**8ポイント上昇し、108**
- コロナ禍で賃料が下落する前（2020Q2）の賃料を上回った
- 底堅い需要を背景に、急速に賃料が上昇している。

【図表4】 新規成約賃料インデックス



	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
新規成約賃料インデックス	94	90	98	100	108

新規成約賃料インデックス：延床面積や築年数などの賃料形成要因について品質調整を行うことで、不動産の個別性による影響を取り除いた新規成約賃料単価の指標。

詳細は以下レポートを参照。

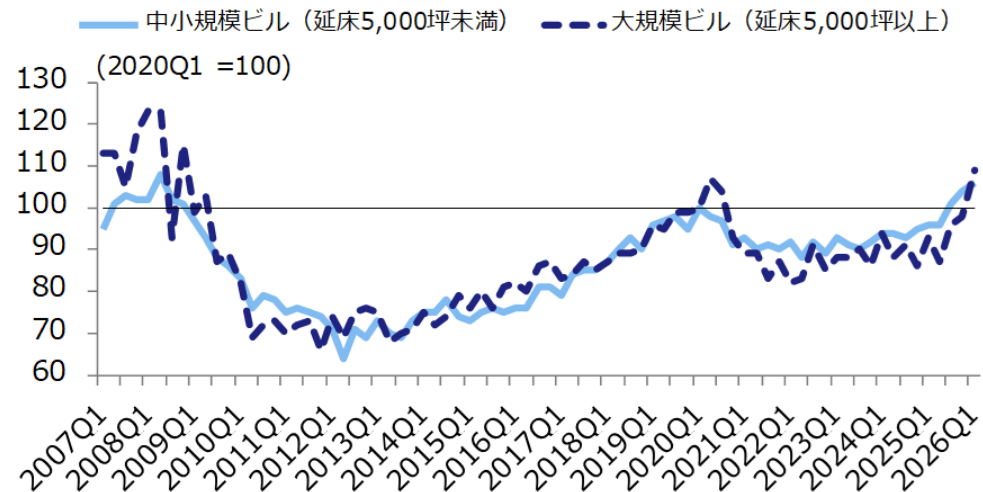
2014年9月19日公表「ザイマックス新規成約賃料インデックスを公表」参照  
[https://soken.xymax.co.jp/report/140919-new\\_contract\\_rent\\_index.html](https://soken.xymax.co.jp/report/140919-new_contract_rent_index.html)

2021年4月19日公表「新規成約賃料インデックスの改訂（2021年）」参照  
[https://soken.xymax.co.jp/report/2104-new\\_contract\\_rent\\_index\\_revise2021.html](https://soken.xymax.co.jp/report/2104-new_contract_rent_index_revise2021.html)

# 新規成約賃料インデックス(規模別):大規模は109、中小規模は106

- **新規成約賃料インデックス(延床面積5,000坪以上の大規模ビル)** は前期から**11ポイント上昇**し、**109**
- **新規成約賃料インデックス(5,000坪未満の中小規模ビル)** は前期から**2ポイント上昇**し、**106**
- 大規模ビル、中小規模ビルともに前期から上昇が続いている。
- 足元では、特に大規模ビルにおいて顕著な賃料上昇の動きがみられる。

【図表5】 新規成約賃料インデックス(規模別)

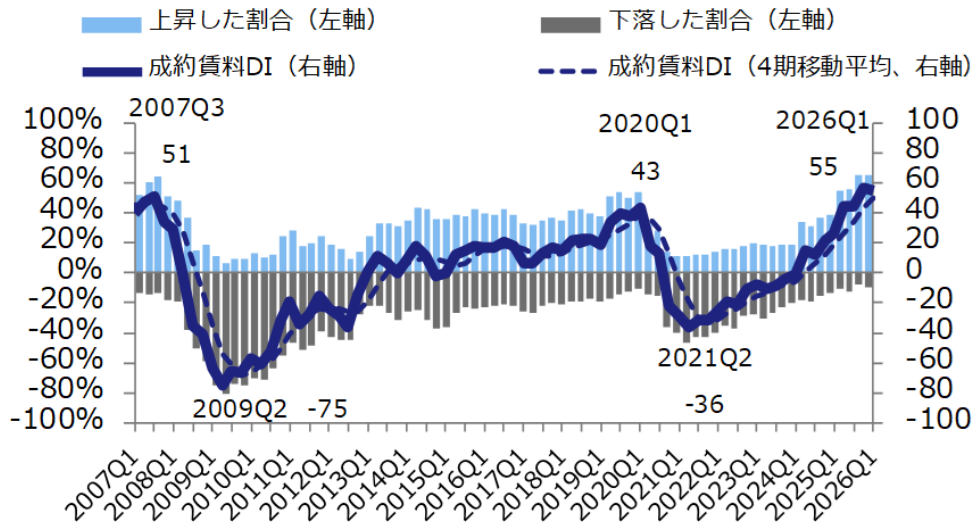


	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
大規模ビル(延床5,000坪以上)	93	87	96	98	109
中小規模ビル(延床5,000坪未満)	96	96	101	104	106

# 成約賃料DIは55で8四半期連続のプラス

- **成約賃料DI**は前期から**2ポイント**下落し、**55**
- 四半期前と比べて上昇した物件の割合は**65%**、下落した物件の割合は**10%**
- 8四半期連続でDIはプラス圏となった。
- 2007Q3の51を上回る水準が続いており、賃料の上昇傾向が顕著となっている。

【図表6】 成約賃料DI



成約賃料DI：“新規成約賃料が半年前と比べて上昇した物件の割合－下落した物件の割合”で算出される指標で、新規成約賃料の変化の方向性を示す。

各種経済指標との関連性は、2013年12月13日公表「成約賃料DI、四半期ごとの公表へ」参照[https://soken.xymax.co.jp/report/131213-quarterly\\_contract\\_rent\\_di.html](https://soken.xymax.co.jp/report/131213-quarterly_contract_rent_di.html)

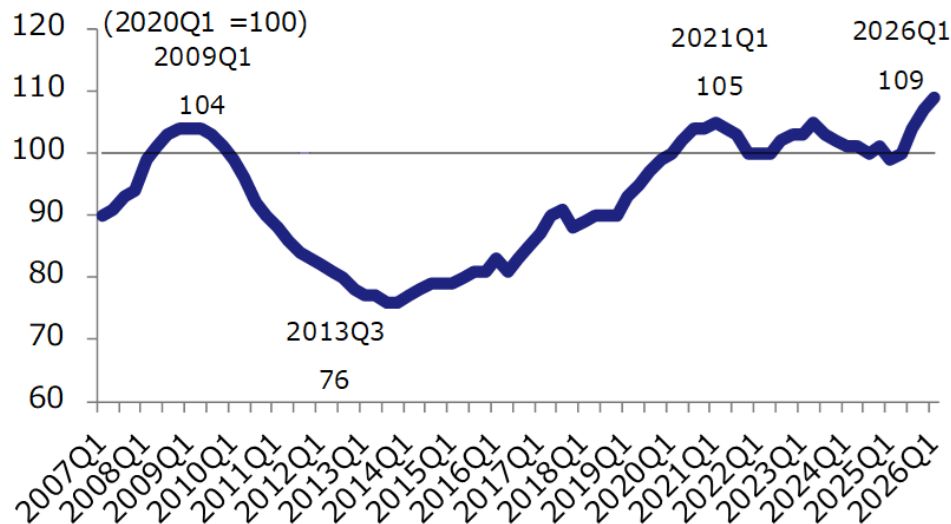
新規成約賃料インデックスとの関連性は、2021年2月3日公表「オフィスマーケットレポート 東京 2020Q4 TOPIC1」参照[https://soken.xymax.co.jp/report/2102-office\\_market\\_report\\_q4\\_2020.html](https://soken.xymax.co.jp/report/2102-office_market_report_q4_2020.html)

	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
成約賃料DI	26	44	44	57	55

# 支払賃料インデックスは109

- 支払賃料インデックスは前期から**2ポイント上昇**し、**109**
- 2005年の調査開始以降の最高値であった前期をさらに更新した。
- 新規成約賃料の上昇に加え、既存契約の増額改定も進んでおり、支払賃料インデックスも上昇基調にある。
- 契約更新時に、賃料をCPIに連動して増減させる契約（CPI連動型賃料）を導入するケースもみられる。

【図表7】 支払賃料インデックス



	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
支払賃料インデックス	99	100	104	107	109

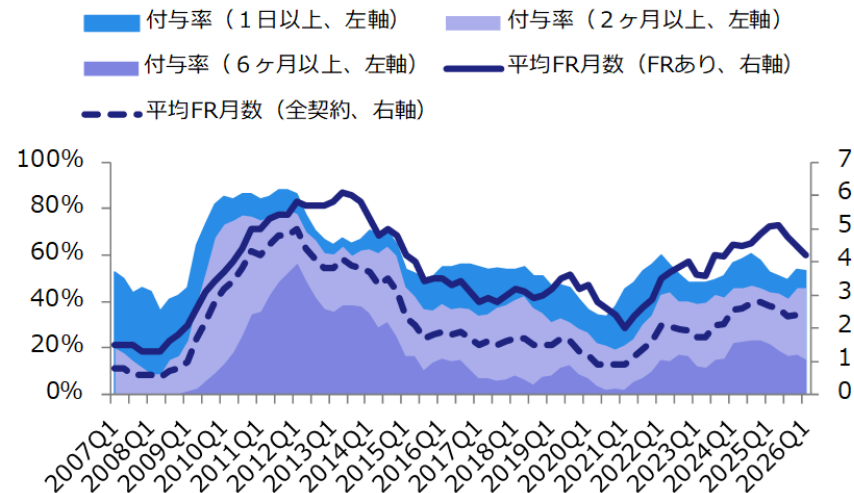
支払賃料インデックス：新規賃料と継続賃料の両方を含む賃料インデックス。新規成約賃料に比べると遅れて変化し、変動幅は小さくなる性質をもつ。

詳細は2015年10月15日公表「支払賃料インデックスを公表」参照  
[https://soken.xymax.co.jp/report/151015-paying\\_rent\\_index.html](https://soken.xymax.co.jp/report/151015-paying_rent_index.html)

# 全契約の平均FR月数は2.2ヶ月、FR付与率は53.1%

- **全契約の平均FR（フリーレント）月数**は前期から**0.2ヶ月減少し、2.2ヶ月**
- **FRあり契約の平均FR月数**は前期から**0.3ヶ月減少し、4.2ヶ月**
- **FRの1日以上付与率**は前期から**0.9ポイント下落し、53.1%**
- **2ヶ月以上付与率**は**0.2ポイント下落し、45.5%**
- **6ヶ月以上付与率**は**1.8ポイント下落し、15.1%**
- 足元の動きでは、市場の逼迫によりFR付与は減少傾向にあり、大型移転においても入居工事期間分の付与に留めるケースがみられる。

【図表8】フリーレント



		2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
平均FR月数	全契約	2.7	2.6	2.4	2.4	2.2
	FRあり契約	5.1	5.1	4.8	4.5	4.2
付与率	1日以上	52.9%	51.1%	49.4%	54.0%	53.1%
	2ヶ月以上	44.1%	43.3%	41.3%	45.7%	45.5%
	6ヶ月以上	21.6%	18.6%	16.6%	16.9%	15.1%

FR（フリーレント）：新規契約における契約開始日と賃料発生日の差分から算出。

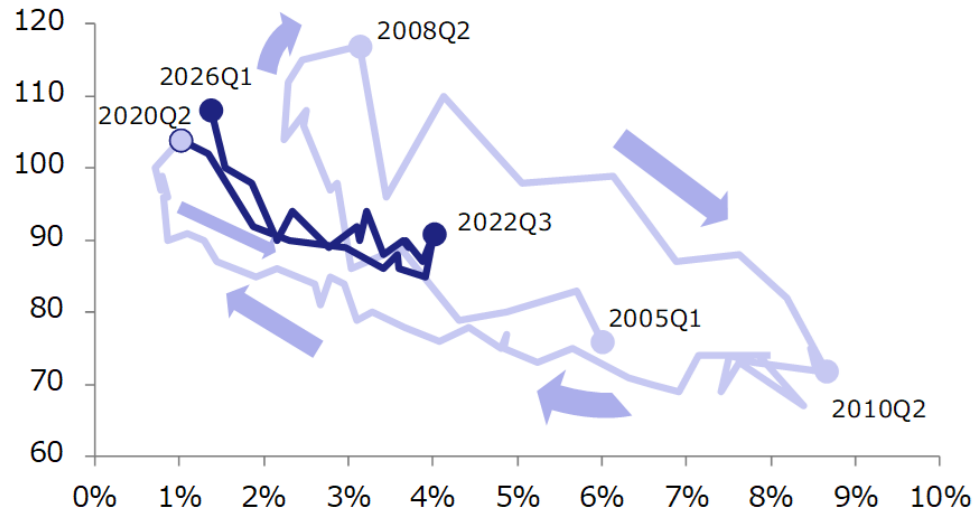
FR付与率：FRが付与されている契約の割合

平均FR月数：FR期間の平均月数

# マーケット循環は空室率が-0.18pt、新規成約賃料インデックスが+8ptで左上に移動

- 空室率が0.18ポイント下落、新規成約賃料インデックスが8ポイント上昇で、左上に移動
- 空室率の下落と賃料の上昇が進み、新規成約賃料インデックスはコロナ禍直前の好況期を上回った。
- オフィスマーケットは堅調だが、地政学リスクによる今後の影響を懸念して移転を保留とするケースもみられる。市場への影響については今後の動向を注視していく必要がある。

【図表9】マーケット循環



	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1
空室率	2.33%	2.15%	1.85%	1.55%	1.37%
新規成約賃料インデックス	94	90	98	100	108

注：2011年3月以前の空室率は大手賃貸仲介会社のデータをもとに計算したものを接続

マーケット循環：横軸に空室率、縦軸に新規成約賃料インデックスをとって四半期ごとにプロットしたもの。オフィスマーケットの好況期には左上（空室率下落・賃料上昇）に、不況期には右下（空室率上昇・賃料下落）に移動する傾向がある。

# 主な竣工ビル、オフィス移転情報

## 主な竣工ビル

ビル名	階数	所在	住居表示	竣工	延床面積
OIMACHI TRACKS BUSINESS TOWER	A-1地区 地上26階・地下3階	品川区	広町2-1-21	2026/03	A-1地区 75,600坪
	A-2地区 地上2階・地下2階				A-2地区 2,750坪
TOFROM YAESU TOWER	地上51階、地下4階	中央区	八重洲1-6-1	2026/02	68,050坪

出所：各社公表資料等をもとにザイマックス総研作成

## 主なオフィス移転情報

企業名	移転元/所在	移転先/所在	移転時期	移転理由	賃借面積
中外製薬	日本橋三井タワー 他 (中央区)	八重洲二丁目中地区第一種市街地再開発事業 (中央区)	2029年春 (予定)	成長戦略の実現と 組織の連携強化	5,700坪
東京建物	東京建物八重洲ビル 他 (中央区)	TOFROM YAESU TOWER (中央区)	2026年秋 (予定)	成長加速に向けた 本社機能の高度化	4,560坪

出所：各社公表資料等をもとにザイマックス総研作成、面積は推定値

## 調査概要

	空室率 募集面積率	空室増減量	空室消化率
概要	マーケットにおける賃貸面積のうち空室面積および募集面積の占める割合	マーケットにおける空室の増加量・減少量の変化を表したもの	マーケットにおける空室面積のうち、期中に消化された空室の割合を示す指標
意味・意義	マーケットの需要と供給のバランス		
用途	オフィスビル		
地域	東京23区		
規模	延床300坪以上		
公表頻度	四半期		
データ元	ガイマックスが独自に収集した空室募集区画と物件データ		
直近四半期の使用データ数	9,061棟	6,418件	6,418件
算出方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空室率 = 空室面積 ÷ 賃貸面積</li> <li>・空室面積： 調査時点において、竣工済物件で募集中空室区画の面積の合計</li> <li>・賃貸面積： 調査時点において、竣工済の物件の賃貸対象となる面積</li> <li>・募集面積率 = 募集面積 ÷ 賃貸面積</li> <li>・募集面積 空室面積に解約予告済みの区画を加えた募集中の面積の合計</li> <li>※賃貸面積が公表されていない物件は、京都大学大学院工学研究科建築学専攻加藤直樹研究室との共同研究結果から導き出された計算式を使用し、延床面積より推計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空室増加面積 a. 既存ビルのテナント退去面積 b. 新規竣工物件の総賃貸面積</li> <li>・空室減少面積 a. 既存ビルのテナント新規入居面積 b. 新規竣工物件の総賃貸面積のうち、竣工時点でテナント入居が決まっている面積 c. 既に空室だったものが貸止めされた面積</li> <li>※賃貸面積が公表されていない物件は、京都大学大学院工学研究科建築学専攻加藤直樹研究室との共同研究結果から導き出された計算式を使用し、延床面積より推計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空室消化率 = 期間中の空室減少面積 ÷ (期初空室面積 + 期間中の空室増加面積) で計算。</li> <li>・期間中の空室減少面積：空室増減量と同様</li> <li>・期初空室面積：期初時点において、竣工済み物件で募集中空室区画の面積の合計</li> <li>・期間中の空室増加面積：空室増減量と同様</li> </ul>

## 調査概要

	新規成約賃料 インデックス	成約賃料DI	支払賃料 インデックス	フリーレント 付与率・平均月数
概要	延床面積や築年数など賃料に影響を与える要因を統計的手法により品質調整した、成約賃料に基づくオフィス賃料指数	成約賃料が上昇した物件と下落した物件の数を比べることで、成約賃料の変動を示す指標	新規賃料と継続賃料の両方を含む支払賃料の時系列変化を示す指標	契約開始日と賃料発生日のタイムラグの分布状況と平均
意味・意義	成約賃料の水準	成約賃料の変動の方向性	企業が支払っている賃借料の水準	成約賃料単価には表れないマーケットの状況
用途	オフィスビル			
地域	東京23区			
規模	延床300坪以上	全規模	延床300坪以上	全規模
公表頻度	四半期			
データ元	ザイマックスが独自に収集した成約ベースの賃料（共益費込）		ザイマックス受託物件におけるテナント契約データ（共益費込）	ザイマックスが独自に収集した成約データ
直近四半期の使用データ数	533件	609件	5,003件	49件
算出方法	<p>① 収集した成約データを基に、立地・延床面積・築年数・設備・成約時点・環境認証などを変数とした、成約賃料を説明する「接続型ヘドニックモデル（重複推定期間＝5四半期）」を構築。</p> <p>② ①で構築したモデルに、標準的なビルの属性値を代入することで、四半期ごとの成約賃料を推定。</p> <p>③ ②で推定した推定賃料の基準時点（2020年第1四半期）を100としたときの値を、マーケットセグメント（4区分）ごとに計算。</p> <p>④ ③の値を延床面積をウェイトとしたフィッシャー型指数として統合する。統合した値を東京オフィスマーケットの新規成約賃料インデックスとしている。</p> <p>※これにより、立地・規模・築年数・設備など各変数の影響を調整した、成約賃料の時間的変化を表すことができる。</p>	<p>① ビルごとに半年前の成約賃料単価と比較し、「上昇」「据置」「下落」についてそれぞれ棟数をカウント。</p> <p>② ①から「上昇」の割合、「下落」の割合を計算。</p> <p>③ ②で求めた「上昇」の割合から「下落」の割合を引いた数値を成約賃料DI（デフュージョン・インデックス）としている。</p>	<p>① 契約書・覚書単位で蓄積されたテナント契約データからテナント単位の賃料単価を集計。</p> <p>② ①の支払賃料を、立地・延床面積・築年数・設備・成約時点などで説明する「接続型ヘドニックモデル（重複推定期間＝5四半期）」を構築。</p> <p>③ ②で構築したモデルに、標準的なビルの属性値を代入することで、四半期ごとの支払賃料を推定。</p> <p>④ ③で推定した支払賃料の、基準時点（2020年第1四半期）を100としたときの値を、支払賃料インデックスとしている。</p> <p>※これにより、サンプルの入れ替わり、経年劣化の影響を調整している。</p>	<p>・フリーレント期間： （2020Q4まで）契約開始日と賃料発生日の間の日数 （2021Q1以降）新規契約（館内拡張・再契約などを除く新規入居契約）において、契約開始日から連続して賃料を共益費相当額あるいはそれに近い額に減額する措置を取っている期間</p> <p>・フリーレント付与率： 新規契約（館内拡張・再契約などを除く新規入居契約）のうち、フリーレント期間のある契約の割合</p> <p>・平均フリーレント月数（全契約）： フリーレント期間がないものも含む、すべての契約におけるその期間の単純平均</p> <p>・平均フリーレント月数（FRあり契約）： フリーレント期間があるものにおけるその期間の単純平均</p> <p>フリーレント算出に当たっては、直近4四半期の契約を用いて計算を行っている。</p>